

「つながること」から生まれる子育て

小池 由佳

hug kumi コラム

他のお母さんは、どうしているの？

「同じような年齢の子どもを育てている人との出会いがない」「先輩ママから子育てについて話を聞きたい」…子育て中のお母さんたちの声です。そういった声を聞くと、皆さん、年齢や月齢の近いお子さんを持っている人と話したい、いろんなこと知りたい、「他のお母さん、どうしてるのかな?」という思いを持ちながら子育てされているんだろうなと思います。周りを見回せば同じような年齢の子どもを育てている方と自然に出会える、なんてことは本当に少なくなってしまいました。まさに少子化ですね。



井戸端会議があった頃

以前は、公園や地域のちょっとした場所で子育て中の親たち(おもに母親)が集まって話をしている姿はよく見られました。そういった様子をよく「井戸端会議」と言っていました。元々は「かつて長屋の女たちが共同井戸に集まり、水くみや洗濯などをしながら世間話や噂話に興じたさまをからかって言った言葉。」(小学館『日本国語大辞典』より)です。当時の女性たちは仕事をしながら世間話や子どものこと、夫のことや姑のこと、日頃の他愛ないことを笑ったり泣いたりしながら話をしていました。その中にはきっと「うちの子、なかなか寝なくて困るのよ」「今度、親戚の用事で

出かけるんだけど、うちの子見てもらえない?」なんていう話もごく自然にしていたことでしょう。

第2次ベビーブーム世代の親たちである私の親世代も、井戸端ではありませんでしたが、個人宅等で「井戸端会議」をよくしていました。子ども心に「まあ、よくしゃべってるなあ」と思っていました。その周りで子どもたちも一緒になってわいわい遊んでいました。我が家によく来ていた男の子は私の父に遊んでもらったり、いたずらをして怒られたりなんてこともありました。

「井戸端会議」のように普段の生活のなかで、子どもの話をすることが少なくなってきました。その結果、お母さんたちは誰かと子育て

について話したい、聞きたいという思いを持つようになってきました。日頃からそういう場面がたくさんあればこういった声が出てくることはなかったと思います。でも今日の社会状況のなかでは、子育ての情報を日常的な会話から得ることがあまりに少ないことが現実です。

子育てについての情報ということであれば、ネット社会になったことで助かることも出てきました。たくさんの情報が得られるようになったことやネットでのつながりを通して他のママたちの意見を聞くこともできるようになりました。「架空井戸端会議」ではありませんが、会話をしているようなやりとりもできるようになっています。

つながるための一歩

一方で「現代版井戸端会議」として、地域子育て支援センターやひろばが各地で作られるようになりました。お母さんたちの「話したい」「聞きたい」「つながりたい」ができる場として、利用するお母さんたちも増えてきました。井戸端会議との違いは、保育士など専門のスタッフがいることでしょうか。「話したい」「聞きたい」「つながりたい」を取り持つ人がいることが大きな特徴です。

子育てはいつの時代も親が「人とつながる」ことで成り立っています。これまでとの違いは、お母さんたちがつながりたいと思ったら、支援センター等に出かけるという形で動

かなければならなくなったことです。このことは当たり前のように思えるのですが、以前のように日頃の生活のなかで子育ての話をするのと違って「子育て中の人とつながるために」動くことになります。これってちょっと不安だなあ、心配だなあ、誰かと話せるかな、といった思いも出てくるのではないのでしょうか?せっかく親子の居場所に行っても、なんだかひとりぼっちだった…となると、せっかく動いてみたのになあという思いにも駆られてしまいそうです。でも心配しないでください。子育てについて話したい、聞きたい、子育て中の人とつながりたいという思いは時代を超えてみんなが持っている思いです。特別な人だけが持っているわけではありません。だとしたら、つながりたいけどつながれるかなあという思いを持っている人もたくさんいることになります。そんなお母さんたちをつなぐために子育てを支えるスタッフの人たちもいます。



「つながること」が育ち合いのチャンス!

人とつながりながら子育てをするということとは、お母さんだけでなく子どもにとっても大切なことです。子育て支援の場で私が好きな場面が二つあります。ひとつは本当にまだ幼い赤ちゃんがお互いに反応しあっている場面です。声を聞いてそちらの方に顔を向けたり、手を伸ばしたりします。子どもは子ども同士で育ち合う存在です。この育ち合いがこんなに小さな時から始まっていることに驚きと感動を覚えます。自分以外の同じような存在がいるということを知ることが、その後の友達関係を豊かにすることにもつながります。

先日もある親子の居場所で2歳の男の子2人が一緒にプラレールで遊んでいる場面を見ってきました。聞くとずっとその居場所で親子ともに過ごしてきたとのこと。お母さん同士が

話をしている、一緒に仲良く遊んだり、困ったときには言いに来たりと上手に2人で遊んでいました。赤ちゃんの頃から一緒に過ごしてきたことで、関係性が育っていました。もう一つの場面は、自分の子どもに他のお母さんが声をかけている、あるいは自分が他のお母さんに声をかけるという「斜めの関係」です。子どもは親以外の大人から褒められたり声をかけてもらったりすることで、親以外の大人存在を知り、自分は周りから関心をもってもらっているということがわかります。

この「関心ある存在」であるという認識がその後の子どもにとって自分を肯定的に捉えることにもつながっていきます。また「斜めの関係」はお母さんたちにとっても、自分の子以外の子どもに関心を持つこと、お互いにお互いの子どもを認め合うこととなります。自分の子どもの存在を認めてもらうって実は今日社会の中では貴重な経験なのかもしれません。

「つながりのある子育て」のポイント

「つながりのある子育て」はお母さんにとっても、子どもにとっても大切なことです。そんな「つながりのある子育て」のポイントを挙げたいと思います。

Point 1

「ともに」を大切に

人とつながることは相手と何かを共有することになります。それは遊びだったり、時間だったり、悩みだったり、多様です。この「ともに」を大切にすることから「つながり」は生まれていきます。



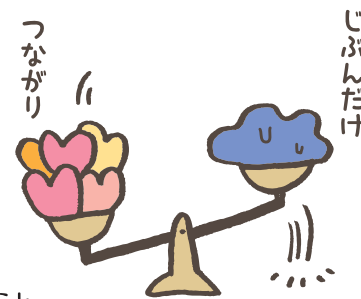
小池 由佳 先生

新潟県立大学人間生活学部子ども学科 准教授
社会福祉士、保育士。
専門は子ども家庭福祉、地域福祉。
コミュニティ・地域社会の特性を活かした子育て支援について研究・実践を進めている。
5歳児女子の母。奈良県出身。

Point 2

「じぶんだけ」からの解放

人とのつながりのない中での子育てで気をつけなければならないのは、この「自分だけ」にとらわれてしまうことです。「自分だけがこんな思いをしている」「自分だけがこんな悩みを抱えている」といった「自分だけ症候群」にかかってしまうと、自分を責めたり、子どもに不適切な関わり方をしてしまうことにもつながりがねません。人とつながることで他にも同じ悩みを抱えている人がいることがわかると、子育ての不安や悩みも軽くなります。



Point 3

「な」かまはいる

Point2の「じぶんだけと思わない」とも関連しますが、なかま、つまり同じような悩みや不安を抱えている人たちは必ずいます。あなただけがその悩みを抱えているということは本当に少ないのです。そして、その親を支えたいと思っている人たちもまた必ずいるのです。

Point 4

「いまを大切に」

「いま」の子どもの育ち、親としての出会い、つながりを大切にしていくことがその後の子育てや人生にも深く関わっていきます。

「ともに」「じぶんだけ」「な」かまはいる」「いまを大切に」…。「つながりのある子育て」のポイントは「とじない」ことです。子育てを親だけで閉じないことが、子どもの育ちを豊かにすること、親の子育てにゆとりを生み出すこと、子育てしやすい社会づくりにもつながっていくのです。